

《災害に対する備え》 の大切さを改めて実感

水道局 水道サービス課

鈴木 哲也 さん



能登半島地震の災害支援活動に市水道局から4人の職員を派遣しました。水道局の隊長として、1月28日から2月5日までの9日間の《七尾市》での給水支援活動を終えた鈴木哲也さんにお話を聞きました。

現地活動で感じたこと

給水場所に訪れる多くの被災者を目の当たりにしたとき、改めて水の大切さ、ありがたさを実感しました。また、日々の支援活動を終えた給水車両約50台が集まった情景を見たときに、各自治体の支援活動体制や準備が整っていると感じました。

現場で困っていたこと

水を入れる容器を自分たちで用意する必要があり、手配に苦労している方が多いと感じました。被災された方々の入浴は、数日に一回しか入れない状況でしたが、給水場所の近くで運営していた《自衛隊》の入浴施設にたくさんのお客様が訪れ、笑顔で帰宅していた様子が印象に残りました。

現場で心に残った出来事

給水車両の《千歳市水道局》の文字を見た多くの被災者の方から、「寒い中、遠くから

支援に来てくれてありがとう」と声をかけていただいたこと、給水に来た方々が笑顔で帰られていたことが心に残りました。

現地で意識していたこと

高齢者が給水場所に来ることが多かったので、水を入れた重たい容器を車に積み込むところまでお手伝いするよう、隊員全員で心がけました。

災害派遣を振り返って

現地の災害支援本部では、グループLINEを活用した他自治体との情報共有やグループマップを活用した給水指示などが行われ、スムーズに活動することができました。《災害に対する備え》の大切さを改めて実感しました。



先生、教えて!



前立腺がんについて



市立千歳市民病院
診療部長 新藤 純理

今月号では、男性の《前立腺がん》についてお話しします。

前立腺がんを早期発見するために最も有用な検査は、がんや炎症により前立腺組織が壊れることで血液中に漏れ出すPSAを調べることです。基準値は、0〜4ng/mLとされており、年齢により基準値が下がることもあります。4〜10ng/mLの場合、25〜40%の割合でがんが発見されます。

ただし10ng/mL以上の場合でも前立腺がんが発見されない場合や、4ng/mL以下でも発見されることがあります。また、100ng/mLを超える場合は前立腺がんや転移が強く疑われます。

血液検査以外にも、医師が肛門から指を挿入して前立腺の凹凸や硬さなどを調べる直腸診、超音波器具を挿入して大き

や形を調べる経直腸エコーがあります。

また、画像診断では、リンパ節や肺への転移を確認するためのCT、前立腺内のがんの部位や前立腺外への浸潤やリンパ節への転移を調べるMRI、骨への転移を確認する骨シンチグラフィなどがあります。

これらの検査を実施し、最終的な診断のために前立腺生検を行います。前立腺生検は、超音波で前立腺の状態をみながら、細い針で前立腺を刺して組織を採取します。初回の生検では、10〜12か所の組織採取を行います。前立腺すべての範囲から採取するわけではありませんが、そのため、採取できなかった部分にがんが潜んでいることもあり、外来で経過観察をしながら、改めて生検をすることもあります。

心配な方は、泌尿器科専門医を受診してください。